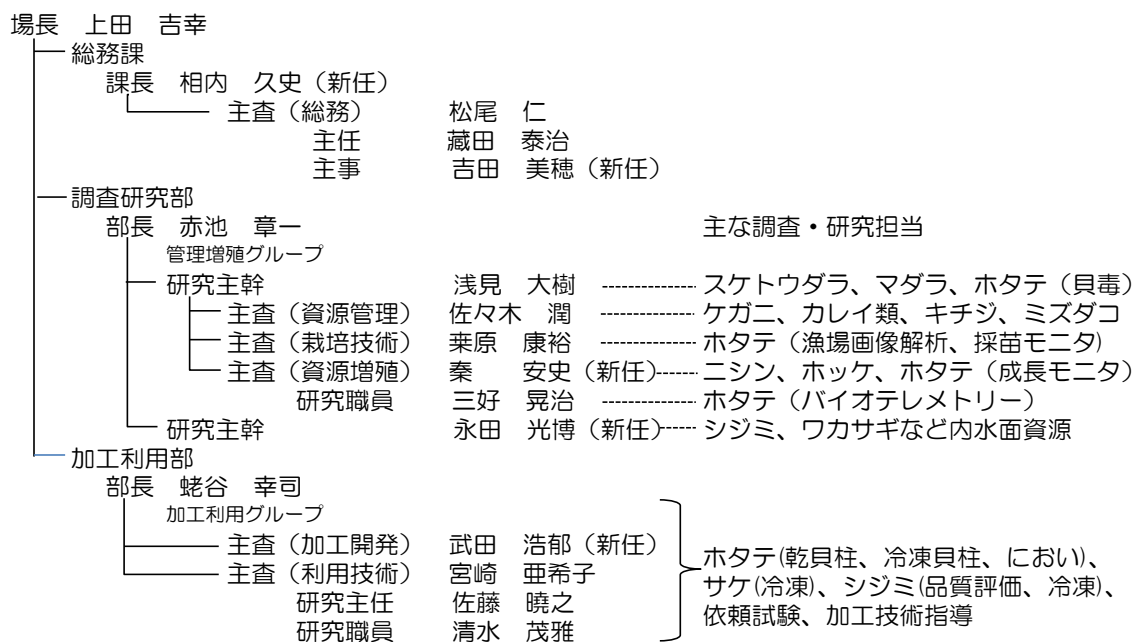


4月に入り雪も溶け春らしくなってきました。網走の今年の海明けは2月28日で平年より20日、昨年より3日、早かったとのこと。すでにホタテガイやケガニ、沖合底引き網など主要な漁業も始まっているところと思います。網走水試でも新たな体制での調査・研究が始まります。

▼平成28年度網走水試の組織体制と各職員の担当業務は下図のとおりです。大きな変更点は調査研究部に新たに2名の職員が加わり7人体制となることです。網走市の水産科学センターにあった、さけます内水面水試道東内水面グループの研究機能を網走水試に移し、さけます内水試本場から永田研究主幹を迎え、網走湖のシジミやワカサギなどの課題に対応していきます。これまで道東内水面グループへ行っていた連絡や照会などは、今後、網走水試へいただければと思います。また、研究主幹が兼務していた主査（資源増殖）には、新たに中央水試から秦（はだ）主査が着任。加工利用部成田主任研究員の中央水試への転出に伴い、釧路水試から武田主査（加工開発）が着任します。総務課では田附課長の留萌海区への転出に伴い、漁業研修所から相内課長が、三木主任の根室振興局への転出に伴い、釧路振興局から吉田主任が新たに着任し、業務に当たります。それぞれの立場で地域に貢献する活躍を期待し、皆様には、ご指導、ご協力をお願いできればと思います。



▼調査研究部では、新たに地域における内水面の課題に取り組むほか、今年度から「海中ヒトデ駆除技術の開発」、「効率的で頑健な地まきホタテガイ漁業を支える海底可視化技術開発」などのホタテガイ漁場に関する新規課題に取り組みます。

▼加工利用部では、今年度から「非破壊分析によるケガニの身入りやみその脂質含量推定技術開発」、「ヤマトシジミの高品質流通技術開発」、「道産水産物におけるヒスタミン蓄積に関する基礎研究」など主に流通に係わる3つの新規課題に取り組んでいきます。(網走水試 上田)